



ぶどうのささやき

2号

2008年
9月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

中小企業への経営技術総合支援について

神奈川県産業技術センター
所長 馬来 義弘

昨今の厳しい競争環境の中で、ものづくり系中小企業が逞しく生き残っていくためには、継続的な技術開発の強化とともに、売れる商品を生み出すための経営力の強化が必要です。神奈川県産業技術センター（以下産技センター）は、これまで中小企業の技術開発力の強化に関しては、それなりの成果を積み重ねてきたと自負していますが、売れる商品を創るという観点では、残念ながらこれまで十分な貢献をしてきたとは言いがたいのが実情です。

そこで今年度より、県の代表的企業経営者を委員長（CEO）とする「神奈川中小企業総合支援委員会」を立ち上げ、この委員会のもと、技術支援機関の産技センターと経営支援機関の（財）神奈川産業振興センター（以下産振センター）とが一体となって経営技術総合支援を展開することにより、売れる商品創りにこれまで以上に貢献できる体制としました。

この経営技術総合支援を進めるには、今まで以上にコーディネート機能が重要になります。産技センターも、「目指せ！世話好きおばさん仲人役」を合いこ

とばに、職員のコーディネート能力の向上に努めています。すなわち、昔の世話好きなおばさん仲人は、持っているネットワークをフルに駆使して、最適な組み合わせと思われる男女を選んで出会いの場を提供するだけでなく、結婚に至った後も幸せな夫婦生活が続くように継続的に世話をしていました。中小企業支援に関しても、このように「地域に密着したおばさん仲人役」の存在と活躍が非常に重要だと思います。



産業クラスター研究会は、経営技術総合支援をワンストップで行えるという大きなアドバンテージがあります。また、「産業クラスター研究会は、コーディネート機能を更に発展させ、プロデュース機能を強化していきたい」と、古川理事長は方針を示されています。この方針のもと、産業クラスター研究会が、産振センターや産技センター等の公的支援機関と上手く連携を取りながら、中小企業支援の実績を積み重ね、「地域に密着したNPOの成功モデル」として、県内はもちろん全国的に名が通った存在に発展されることを心から期待しています。

【歳時記】 今年も暑い夏がゆっくりと通り過ぎて行った。地球温暖化に与する訳ではないが、私自身はジリジリ照りつける太陽のもとの暑い夏が好きである。

庭木に水をやり一風呂浴びたあと、キンキンに冷えたビールをグイッと呷る。その爽快さは最上のそして最高の消暑法と思っている。この時のビールのおつまみといえば枝豆が定番。ツルッ、グイッ。この連続動作が至福の時を刻んでくれる。

最近新潟県人が我が家に入りやすくなるようになって新潟産の枝豆が出てくるようになった。この枝豆の中でも最高級と言われるのが黒崎産の茶豆で、黒豆における丹波篠山に相当するほどのものと言っても良い。ほんのりと甘みを感じられ、これぞ枝豆！と思わせる旨

さを持っている。

先の黒豆のイメージからか、茶豆というのは豆の色が茶色になったもの、と思い込んでいた。ある時何気なく、口に放り込む前に豆を取り出して見たら何の変哲もない通常の枝豆と変わらない緑色であった。

じゃあ、なぜ茶豆というのだろう。茶の臭いがするからさ、が答えであったが気がつかない！本当なのだろうか？黒豆が色に基づき茶豆はその臭いからきているという。同じ大豆の仲間でありながら、このような違いがあるとはつい先ほどまで知らなかった。しかし、先のお話を注意深く聞いてみると、茶の香りは茹でている時にするそうである。厨房に立つのが苦手な者としては、まだ確認をしていないのだが……（ス）

◆クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーター氏が著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

部会活動紹介

企業支援事業部会

アイデアはまず権利化を！

知的財産の権利確保や他社の開発動向を知ることが、ますます重要になってきました。その一助として、当部会の活動の一つに法人会員向け特許・実用新案・商標等の調査・出願支援があります。

当部会では、経験豊かな部会員の事前相談の後、他社類似特許の“先行技術調査”をして、特許事務所に依頼するように依頼します。

とにかく、特許出願等は手間がかかり高額との印象ですが、当研究会独自の検討ステップをご活用されれば、比較的容易に出願・権利取得が可能ですので、まず最初に「アイデアが閃いた」時点でぜひ気軽にご相談ください。そのアイデアはどのような方法で権利化するのが、費用対効果最大となるか、多方面から検討し相談致します。

その他、意匠、商標等の知的財産についても同様のステップで検討しますので遠慮なくご相談下さい。

住宅リフォーム事業部会

高齢者の方々が安心して任せられる「住宅リフォームお目付役事業」は、利用された方から大変ご好評を得ていますが、残念ながらまだ多くの方がこの事業活動をご存知ないようです。

そこで、このたび横須賀市消費生活センターのご協

力を得て、『悪質業者に騙されないために』のセミナーを開催します。併せて「相談会」も致します。お誘い合わせでのご来館をお待ちしています。

【セミナー】（終了後 会場にて相談会を実施）

11月29日（土）午後 衣笠コミュニティセンター

12月2日（火）午後 浦賀コミュニティセンター

通常の相談は、常時 YRP 事務所で受け付けています。

横浜事業部会

横浜事業部会は、平成19年度から横浜市との協働事業で、「横浜市と地方の中小製造業との補完関係を構築」することにより、共に活性化を計るという活動です。

7月11日に『横浜テクノプラザ』会（20社）の定例会が横浜テクノプラザ会議室で開催され、当事業部会も出席させていただき、私たちの活動について発表しました。参加者には良く理解いただき、この事業を有効に活用しようと、非常に好評でした。

この会の代表者を務められる（有）山田工業所の山田豊明代表取締役社長は、NHK 首都圏ネットワークにも取り上げられた中華鍋の製造についての達人です。社長からも種々の支援をしていただくことになりました。こうした活動を通して、不透明な経済情勢の中で悩む企業への支援テーマが続々寄せられており、その成果を挙げる段階に入ってきています。

種々の経験が活かせるこの事業に多くの方の参加を希望します。

◆◆◆ 事務局からのお知らせ ◆◆◆

◎新入会員紹介 村谷拓郎さんが入会しました。

KDDI の OB で、海外関連事業部会・横浜事業部会に所属しています。

◎行事予定 *行事名：「横浜ライフデザインフェア 2008」に出展します。

*日 時：2008年9月20日（土）、21日（日）10:00～18:00

*場 所：パシフィコ横浜 展示ホール D（みなとみらい駅下車徒歩3分）

多くの方のご来場をお待ちしています。

◎平成20年度の定期総会が5月19日に開催され、平成20年度事業計画・収支予算・新役員等が承認されました。詳細はクラスター研究会ホームページ <http://cluster.jp> をご覧ください。

◎事務局担当の会員募集

現在、会員2名が事務局を担当しています。事務・経理作業になれた会員を募集しています。

人々人々

副理事長 鈴木 清文さん

仕事も家庭も半端でない

わが研究会の時の人。昨年より横浜市との協働事業を推進する横浜事業部会の部長も兼ね、他県も含め各行政機関・横浜市内の中小企業を東奔西走する姿は現役顔まけのバイタリティです。

高校時代は内気で自信とは無縁だった青年が、大学に入り、学費稼ぎと勉学の二足の草鞋を履いて、体当たりで過ごして得た『I can』。「私はやる、やればできる」の自信が社会人として、大きく開花する礎となりました。

1960年、日本のものづくりトップ企業、(株)日立製作所川崎工場での新人研修で、入寮許可の出ていない独身寮に潜り込んで徹底勉強、気がついた時には新入社員のキーマンに。以後、営業技術部門のリーダー

ーとして絶えず指導的役割を務められ、大きな実績を挙げてきました。

人生いろいろ、山あり谷ありで、不幸は突然やってきました。働き盛りの40代半ば、今でいう“うつ病？”の症状で原因不明のまま、もがきの3年間を費やしました。その間、日経新聞発行の『私の履歴書』で100人近くの履歴を貪るように読み、自分を勇気づけました。また、生涯1000枚を書くことをノルマに課して、『般若心経』の写経を始めました。やっと長いトンネルを脱出した時、もう一人の強い鈴木清文を取り戻していました。この写経は今も続いています。

生来の繊細さに加え闘病生活で感得した弱者への目配りと、寓意を忍ばせた辛口の舌鋒から、メリハリの効いたお人柄に、親爺の優しさがしのべれます。

法人会員紹介

(株) ヘリオス

〒 238-0102

三浦市南下浦町菊名 1247-49 ☎ 046-887-2011

HELIOS

日本がまだ公害問題で揺れていた1973年に「青空に輝く太陽を取り戻そう！」との思いから、ヘリオス(ギリシャ神話に登場する太陽の神)をシンボルとして大学院生が起した、今で言うベンチャー企業が我が社です。

創業社長(富野暉一郎)は典型的な下請け鉄工所の長男として生まれ、父親の理解のもと、幼い頃からの夢であった天文学の道に進み、恒星の燃え方の研究をしていましたが、父親の死で研究と会社経営の二足のわらじを余儀なくされ、しばらくは天文台と会社を行き来していました。しかし、世の中はそんなに甘くはありません。やむなく「どうせ会社を経営するなら下請けではなく、世の中に積極的に関わられる業種のメーカーに」と決心し、この道を選んだわけです。

当時、都市ごみの焼却炉は多くが公称能力を達成できず、ごみの処理を巡って都市部ではいわゆる「ごみ戦争」が繰り広げられるような状況でした。燃焼効率を上げるには「ごみを焼却炉の容積に合った大きさに破碎すれば良い」との独自理論から、破碎寸法を自由に設定できる剪断型破碎機を考案し、焼却炉メーカーに売り込んだのです。物理屋が描いた1号機の図面は

設計のセオリーを無視したもので、製作側は大変苦勞し、現地では思わぬトラブルも数多く経験しました。しかし、それらを糧に現社長(富野養二郎)が数々の改良を加え、その後30年以上に渡って焼却技術の高度化に合わせて製品の改良、開発を進め今日に至っています。

日本の都市ごみは、ほぼ100%が焼却されており、日本の焼却技術は世界に誇れるものの一つです。最近公害問題に揺れる中国では、同じような歴史をたどった日本に見習えと、水処理やごみ処理をテーマにしたシンポジウムが多く開催され、我が社の技術を公開したり、技術移転の話をする機会が増えています。

都市ごみの破碎は、対象が多種多様であるため、奥深い技術が要求されます。対象物を均一にしかも刃物を傷めないように破碎するのは至難の業です。刃物の長寿命化、交換の容易さは永遠のテーマです。

24時間、ほぼ365日稼働している焼却炉の入り口を担う破碎機のメーカーとして解決すべき課題に直面することも多いのですが、その際、我が社では「解決が難しい」ではなく「面白いテーマだ」が、合言葉になっています。

イキヌキ イキガイ

堀家 彰生さん

「旅」◆◆◆

少年の夢 宇宙旅行

小学校の図書室で空想科学小説を読みふけた思い出がある。宇宙船で火星探検に出かけるような物語である。中学生になってソ連がスプートニクという名の世界最初の人工衛星を打ち上げた。今、金持ちならロシアのロケットで地球周回の宇宙旅行に行ける時代になった。

青年の野望 世界ビジネストラベル

高校を卒業するとき、世界を相手に仕事をすると決めて外国航路の船員になった。世界各地の港を歴訪する人生が始まり、その後、陸上勤務になっても、今度は飛行機で国内外の主要都市を出張訪問して人生の目的を達成することができた。

家族孝行 海外観光旅行

妻子を同伴しての旅行も国内外を問わずよく行った。ちょうど、円高の時期で格安チケットが出たころだったし、海外のホテルは一部屋いくらの料金体系であったから、子どもはソファベットで寝て、結構格安で行けたのである。

一人旅行

最近是中国への一人旅が多い。日程も宿泊地も決めず、気の向くまま、足の向くままの旅である。片言の中国語と筆談で意思は通じる。家族の心配をよそに探



08.7. 撮影 堀家彰生

モンブラン近くの氷河があるべき所、今は岩肌が露出してガレ場となっている。地球温暖化の影響を目の当たりにしました。水没する恐れのある、さんご礁の国だけでなく、アルプス山脈の頂上の国でも影響があるということです。

検と称して、日本人の行かない奥地へ行って本人は楽しんでる。これはイキヌキ。

孫同伴の旅

小学1年生の孫をフランス在住の従妹のところ連れて行った。孫は初めての外国なのに物怖じすることなく異国を楽しんでいる。孫全員を同伴するとなると、後、数年はかかる。これはイキガイ。

そのうち、孫の誰かが宇宙旅行に行けたら、親子三代で大願成就する。

❖ささやき❖

この地球上に営みがある限り、ごみ問題は永遠の課題ではないだろうか。かといって、これまた無策でいるわけにはいきません。自然発生のごみはさておき、意図的に発生するごみ問題は、廃棄依存の消費型経済成長の膨大な落とし物です。この落とし物を『(株)ヘリオス』さんはコツコツと拾い上げてきた、そんな気がします。

1972年にストックホルムで開かれた国連環境会議から30年以上、ようやく今年の北海道洞爺湖サミットでは、

二酸化炭素削減の課題を軸にして、各国首脳が地球環境問題に真っ正面から向き合いました。首脳会議で環境問題が主題として取り上げられたのは初めてです。地球環境の悪化はそれだけ深刻になっているということです。

いま私たちは「減量・リサイクル・適正処理」を廃棄物対策のキーワードとして、循環型社会へと転換しつつあります。ヘリオスさんの循環型への新たな取り組みを期待します。地球の未来のために。(卯)

発行：NPO法人 産業クラスター研究会／〒239-0847 横須賀市光が丘8-3 YRPベンチャー棟218号

Tel & Fax：046-847-6355 E-mail：int_cluster@ybb.ne.jp

横浜事務所／〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センター7階12号

Tel：045-633-6488 / Fax：045-633-5183

E-mail：cluster88yokohama@ybb.ne.jp

東京事務所／〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-25-21

渋谷NTビル3階 (株)リズム内

発行人：古川弘康／編集人：卯月 文・赤羽孝之・大西洋治・大久保全勝・川島和男・木下 武・佐々木興吉
杉山徳義・野村 徹・堀家彰生